

＜あけぼの色＞新しい年の始まりには快晴の朝の富士がふさわしいですね。右の3葉の写真は上から順に日の出前、日の出直後そして10分強のちのものです。昔の人々の言葉なら“かわたれ”、“あけぼの”そして“あさぼらけ”の頃になります。前号で触れましたが、確かに“あかね色”とは違い“あけぼの色”は明るい赤、ピンク色です(注)。この“あけぼの色”はたちまちに光に満ちた青空と白銀（しろがね）の富士に変わっていきます。まさに“希望に満ちた年の始め”を感じさせます。

(注)朝日を後ろにした富士の姿はまた違いそうです。

＜かわたれ、たそがれ＞見る人の姿から誰という識別がつかないような薄明かりで、日の出前のすがたを“彼は誰、かわたれ”と言い、日暮れ後のそれを“たそがれ、誰そ彼”と言うそうです。

＜縁起＞年の瀬から新年といってもかつてのようなメリハリがなくなってきました。とはいえ新年には“縁起の良い”植物を紹介したいものです。ひとつはキチジョウソウ(吉祥草)です。家でめでたい



＜キチジョウソウ＞

いことがあると咲くという俗説からこの名があります。細長い緑の葉に隠れて見過ごされそうな小さな花ですがよく探すとビオトープの東の斜面に沢山咲いています。茎の紫と白い花がこの冬枯れの中で際立っています。花が終わるとヤブランのような丸い実を付けることでしょ

う。そのヤブランは今ツヤツヤとした黒い実をあちこちで付けています。
 ＜白と黒、白と赤＞キチジョウソウの白い花とヤブランの黒い実、“白と黒”の対照です。“白黒をつける”とか“黒星”となると黒のイメージはあまりよくないですね。しかし黒は気持ちを鎮め威厳を与える色そして墨染めの衣、聖職者の衣服の色です。“白と赤”は紅白饅頭や歌合戦のように全く対等でこの時期にぴったりです。



＜ジュウリョウ＞

ともあれ赤はめでたい色で冬にはマンリョウ（万両）の実が目立ちます。ビオトープでは代わりにジュウリョウ(拾両、ヤブコウジ)が新年を控えめに演出します。背丈20cmほどですが流れの南斜面に沢山植わっていて葉の緑が目立ちます。その葉陰にぽつぽつと付いている真っ赤な丸い実が目をつけます。＜マンリョウ、ジュウリョウ＞センリョウ、ヒヤクリョウもあり、万、千、百、十と順に実の数が少なくなります。



＜ヤブランの実＞

(文と写真：松本正勝)